

# 「感じてみよう！親子の立ち位置」

IN  
忠岡町

令和5年9月20日（水）

忠岡町では、保護者同士がともに悩みを分かち合い、親と子どもの関係について学びながら交流し、子育てのストレス軽減をめざした「子育て親サロン」を忠岡町児童館において実施されています。この「子育て親サロン」は、今年で9年目を迎えました。今回は、「感じてみよう！親子の立ち位置」を訪問取材しましたので、その様子をご紹介します。

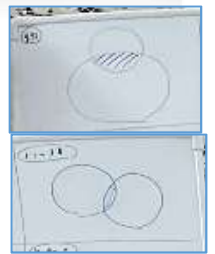
## 導入・ワーク①「子どもとの心の距離感」

初めに、ファシリテーター（進行役）からルール「参加」「尊重」「守秘」を確認しました。ルールの確認後、「子どもとの立ち位置」について、幼稚園、小学校1～3年、小学校4～6年、中学校の4つの時期に分けて、自分と子どもとの心の距離感と存在の大きさを図で表し、参加者と共有しました。



### 参加者からの意見で共通していたこと

- ・幼稚園の頃は、子ども中心。子どものことが全てだった。
- ・小学校1～3年の頃は、学校に行っているときは自分の時間も取れるようになった。
- ・小学校4～6年の頃は、反抗期に入ってぶつかることも多くなった。親が子離れできていないかも…。でも、子どもに干渉したいという葛藤がある。



## ワーク②「家族との心の距離感」

次に、人形を実際に置いて「家族との心の距離感」を表現しました。置かれた人形について、参加者のみなさんで役割分担をして、「それぞれの立ち位置からみた家族」について感じたことを伝えあいました。参加者からは、「人形を通して、家族の距離感を客観的に振り返ることができて良かった。」との感想がありました。



### 参加者の気づき

- ・夫婦の距離感が大切だと感じた。
- ・子どもは大人に気を遣っていると感じた。
- ・それぞれが自立（独立）していくと、家族の立ち位置は円のようになっていく傾向があるということが分かった。



## 振り返り・フリートーク

最後に、全体で意見の交流をしました。ファシリテーターから、「個の尊重を大切に子どもと関わること」、「子どもの話はしっかり傾聴すること」、「自分の考えが相手と一緒にとは限らないこと」など意識すべきことについて伝えられ、「対応する大人の意識向上とスキルアップが重要」というお話がありました。

その後、フリートークの時間が設けられ、参加者から、新しい方に参加してもらう方法について意見がありました。「チラシを作成し幼稚園、小学校、中学校に配付すれば全ての保護者に周知できるのではないか」、「広報誌に二次元コードなどをつけてwebにつなぎ、そこで写真など、活動の様子が見えるようにしてはどうか」、「オンラインでの実施はできないか」など、様々なアイデアや活発な意見が交わされ、充実した「子育て親サロン」となりました。